
愛しているの？

時雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛していいの？

【Nコード】

N67210

【作者名】

時雨

【あらすじ】

双子の姉、由実が好きになってしまったのは、幼馴染の祐輝。でも、そこには、妹、亜実との関係があり、由実の初恋を妨げる……！
切ない、初恋物語。

お誘い

くお誘い

「…でさ、みんなで行こうって、遊園地。由実ちゃんも行かない？
新しい乗り物もできたみたいだし。」

私は、美香の声で我に返った。どうやら、お弁当のウィンナーを
箸でつかんだまま固まっていたらしい。

「新しい乗り物ってどんなの？」

つかんでいたウィンナーを勢いよく飲み込んだ私は、のどにひっ
かけてゲホゲホとせき込む。

「おばけやしき。あ、これって乗り物じゃないね。」

「え、どんなの？」

思わず身をのりだす。結構興味があった。

「『通学路』っていうおばけやしきだって。学校の帰りの通学路を
再現されてて、そこで幽霊がいっぱい出てくるってやつ。曲がり角
とかいっぱいあるしね。」

「へえー。おもしろそうだね。」

一緒に昼食を食べていた李菜も口をはさんだ。

「でも、あのおばけやしき、車どうしの接触事故で死んだ女の子の
幽霊が出るらしいよ。しかも、学校帰りに死んだっていう。」

「えっ……」

「あ、もしかして、由実ちゃんおばけやしきニガテ？」

李菜が心配そうに聞いてくれた。

「……うん。……あ、ちょっとお手洗いに行ってくるね。」

「うん。」

私はそう言っただけで席をたった。

教室を出て、トイレではなく、隣の更衣室へと向かう。

私は、そこで泣いた。

思いっきり泣いた。

涙でぬれた顔をあげ、色あせた天井を見る。
そして、ふとあの日のことを思い出した。

「亜実……。」

気付けば声に出していた。

亜実…… あいたいよ……。

どうしてこんなに早く空の向こうへ行ってしまったの？

亜実がいなくなってから、すべてがなくなってしまったよ。
すべての色がなくなってしまったよ。

明るいオレンジも、やさしい黄緑も。 悲しみのブルーや怒りの赤
さえなくなってしまったよ。

亜実… 私はどうすればいいの？

ひとりぼっちはつらいよ……

悲しい過去

「悲しい過去」

「ねえ、はやくはやくう！」

「あ、亜実、そんなに急がなくてもいいって！」

「だって、今日は由実と亜実の誕生日だよ！おすし食べに行くし、プレゼント買ってもらえるし、遊園地にも行くんだよ！亜実、とっても楽しみなんだもん！」

「おいおい、亜実。誰も遊園地に行くだなんて言っていないだろう？」

お父さんが、こまったようにいった。

「いいの！絶対行くんだもん！」

「まったく、亜実はわがままなんだから……」

お母さんは、そう言っただけで肩をすくめた。

お父さんもお母さんも、亜実がどんなわがママを言ってもいうことを聞いてくれた。

それは、亜実が可愛くて、いい子だったからかもしれない。

「あーおいしかった！ねえお父さん、次は遊園地だよ？」

「わかったよ。まったく、亜実にはかなわないなあ」

お父さんは、笑いながら言った。その横で、お母さんもほほえんでいた。

幸せな時間だった。私は、亜実の天使のようなかわいい横顔を見て、思わずほえんだ。

でも、悪夢は突然やってきた。

ほとんど車の通らない道。ここは、お父さんお得意の、遊園地への近道だった。お父さんは、なれた手つきで曲がり角を左に曲がる。その瞬間、目の前がカツと光り、私は痛みに目をおさえた。一瞬、なにも見えなくなった。

キキイイイイイツ！

耳ざわりの音が聞こえ、私は意識を失ってしまった。

次に目が覚めたときには、私は病院のベッドの上にいた。左目には、包帯がまかれている。

理解できなかった。

なんで？何で私、病院にいるの？この包帯はなに？私どうしちゃったの？亜実は？亜実はどこ？

そんなことばかり考えて、グチャグチャに混乱してしまったところに、医者 came。

医者の話が進むにつれ、私の心は灰色にくすんでいった。

うそ…うそでしょ……

私の左目は失明した？みんな亡くなった？私だけ奇跡的に生き残った？

うそだ……絶対……

『うわあああああ！』

まだ小4の私には、あまりにも残酷すぎる事だった。目の前がどんよりとした灰色になり、次の瞬間には真っ白になった。私の世界から、色がなくなった。

小4の夏、7月8日。私はひとりぼっちになってしまった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6721o/>

愛しているの？

2010年11月8日14時21分発行